京都市地域公共交通計画に基づく今後の取組について(イメージ)

京都市地域公共交通計画の理念に掲げる「①市民生活を支える交通手段の維持・確保」及び「②都市の未来を見据えた公共交通の利便性・快適性の向上」の実現に向けて、地域の実情や課題、本協議会等での議論も踏まえながら、具体的な取組について検討していく。

交通事業者間の連携 交通事業者と行政の連携強化 事業者・行政の連携により、持続可能な公共交通ネット ワークの構築を図る 市 民生活を支える交通 地域の輸送資源の総動員 地域の移動手段の確保に向けた協議・検討ステップ 移動手段の確保に向け、多様な移動手段の活用を推進。 公共交通の維持が困難となった場合、地域住民・交通事 業者・行政・関係機関が移動手段の在り方について協議 検討する 公共交通の担い手の確保 (未定) 広く公共交通のイメージ向上や職業の魅力発信など、担 い手創出に向けた取組を推進 手段 (未定) 地域が主体となった取組への支援 の維持 地域が主体となった生活交通維持の取組を支援。生活交 通の維持確保に向けた、交通事業者等への支援の在り方 を検討 利用促進の取組の更なる展開 公共交通の利用促進に向けた取組の推進 確 市民が主体となった利用促進など、市民に自発的に交通 行動の変容を促し、地域で公共交通を守り育てるモビリ ティ・マネジメントを推進 葆

未 (未定) 安心・安全・快適・便利な利用環境の整備 来 バリアフリーの推進や、交通結節点の円滑化、定時性・ を 速達性の向上を図る 見 据 えた 他の分野・サービス等との共創 地域全体で考える共創モデル 交通を地域のくらしと一体で捉え、様々な分野(エネル ギー、医療、教育など)との垣根を越えた連携を検討 公共交通 ラストワンマイルの多様なモビリティ (未定) 現在、研究が進んでいる電動アシスト自転車や電動車い すなど、多様なモビリティの活用 の 利 便性 (未定) 新技術の活用 交通分野におけるデータのオープン化やMaaSの実現に 向けた取組を推進 快適 (未定) 慛 市民生活と調和した観光・混雑緩和 観光の本格的な回復に向けて、混雑対策や京都駅一極集 の向 中の緩和等に取り組む 上

1 交通事業者と行政の連携強化

取組名 交通事業者間の連携 高齢化の進展やコロナ禍による利用者の減少、長期的な担い手不足など交通事業 取組内容 者が厳しい経営環境におかれる中、事業者間の更なる連携を図り、効率的で持続可 能な交通体系の構築を図るとともに、ダイヤ・運賃制度等を含めた利便性向上策を 推進します。 この間、取組を進めてきた、バスの運行ダイヤの調整、共同運行や運賃制度の共 通化について、更に検討を進めることで、限りある輸送力を効率的に活用し、本市 域内における生活交通の維持・確保を図ります。 さらには、公共交通における案内の多言語化や、事業者の垣根を超えた時刻表・ 路線図の統一を進めるなど、案内の充実にも取り組むことで「分かりやすさ」の向 上を図ります。 ・ 特に、現在4つの事業者が運行を担う西京区洛西地域では、国の支援制度である 「地域公共交通利便増進事業」の活用も検討します。 スケジュール R6 R7 R8 R9 R10 京都市、 実施主体 交通事業者 (年度) 連携の在り方検討・関係者間での協議 取組の実施 地域公共 洛西地域における 交通利便増 地域公共交通利便増進事業 進実施計画 の実施 の策定 都心部や周辺部を中心に、複数事業者が運行を担っている地域 実施エリア 取組に要する費用の負担(行政・事業者) 実施に 取組実施後の維持・管理(路線図・時刻表など) 当たって の課題 複数のバス事業者で、系統の共同運行やパターンダイヤ化を実施 現時点の 複数の鉄道・バス事業者で共通利用できる定期券やフリー乗車券の発売 取組内容 公共交通案内情報の統一化指針を策定し、各事業者において案内の分かりやすさ の改善を実施 当バス停からの時刻表 Timetable 平日 We im A STEEL ROBERT 版為桂駅 O HERMAN 市内中心_フリー 020. -9.30 市内中心学フリー 洛西地域で掲出している時刻表 2020. -9.30. (社局ごとではなく, 行先方面別に掲示)

2 地域の輸送資源の総動員

取組名 地域の移動手段の確保に向けた協議・検討ステップ 既存のバス・タクシー事業者による輸送サービスの提供が困難な場合に、地域の 取組内容 関係者による協議を経たうえで、自家用有償旅客運送などの代替サービスの確保の 必要性及び方策を検討します。 ・ 具体的には、バス路線の存続に関する相談等を本市が受けた場合、代替となる輸 送サービスを確保するまでの検討フローの策定を進め、地域、行政、交通事業者の それぞれが取り組むことについて明確にします。 実施主体 京都市、交通事業者、 スケジュール R6 R7 R8 R9 R10 地域住民 (年度) フローの検討 (必要に応じ実施) 主に中山間地域 実施エリア 実施に当 新たな輸送サービスを決定するための評価基準等 たっての (地域主体の輸送サービスの場合) 担い手の確保 課題 地域内の合意形成 地域旅客運送サービス継続事業(国の支援制度) 現時点の 自家用有償旅客運送による輸送サービスの確保 取組内容 (京北ふるさとバス、久多やまびこ号、水尾自治会バス) 検討フロー (イメージ) バス路線の存続に関する申し出・相談 ※乗合事業計画の変更(「森絵の休止・廃止」)の層出以前の段階での申し出を 認定 既存路線のニーズ、路線廃止による困りごとの量と質を把握 利用促進活動の実施 存続の可能性の検討 現状サービスの存続が困難 代替手段の需要見込みの分 需要見込みに応じた 交通モードの選択 代替サービスの検討 効果小 実証実験·効果検証 本格運用

3 市民が主体となった利用促進

取組名	公共交通の利用促進に向けた取組の推進
取組内容	 持続可能な交通ネットワークを構築するに当たっては、公共交通の利用者の増加を図ることが何よりも重要です。 これまで公共交通を利用していない層も含め、広いターゲット層に公共交通の利便性や必要性を訴求し、公共交通の利用増につながる「モビリティ・マネジメント」の取組を推進します。 (ターゲット層のイメージ) * 大学生 * 子育て世代 * 自家用車利用者 など (参考:モビリティ・マネジメント) 「過度に自動車に頼る状態」から「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を
	適度に利用する状態」へと少しずつ変えていく一連の取組。
実施主体	京都市、交通事業者、スケジュール R6 R7 R8 R9 R10 大学生、企業、団体等 (年度) 既存の取組内容の拡充検討・実施 新たな取組内容の実現に向けた検討・実施
実施エリア	都心部、周辺部、中山間地域のそれぞれの地域特性を活かして実施。
実施にあ たっての 課題	・ 取組に要する費用の負担(行政・事業者)・ 実施主体間の合意形成
現時点の取組内容	・ 大学等で、路線バスや地下鉄のパンフレットを配布し、入学後の公共交通の利用を促進 ・ 大学生の通学定期券の利用区間に均一運賃区間を含む場合、均一運賃区間内が乗り降り自由。 ・ 京都市内の交通事業者 10 社局で保護者(父母等)が同伴する場合の幼児全員の運賃を無料化 ・ 車内混雑時を除き、ベビーカーを折りたたまずに乗車可能なことを P R ・ 子育てタクシードライバー養成講座課程を修了したドライバーが専門に乗務する、子どもやその保護者、妊娠中の方にも優しいタクシーの運行 ・ 毎月 16 日を「ノーマイカーデー」とし、企業・学校等の従業員の通勤をマイカーから公共交通に転換するよう呼び掛け

4 他の分野・サービスとの連携

取組名 地域全体で考える共創モデル 人口減少やコロナ禍により利用者が減少し、交通事業者が厳しい経営環境におかれ 取組内容 る中、交通ネットワークの維持に向け、交通事業者間の連携に加え、交通を地域のく らしと一体で捉え、商業や医療や教育等の交通以外の分野や行政と連携して、地域全 体で取り組むことが必要です。 路線バスを活用した貨客混載など、京都市内における既存の共創事業について、公 共交通の利用促進や新たな収益創出に向けた拡充を検討します。 (検討イメージ) スーパーの荷物配送サービスにおける公共交通の活用 スクールバスや病院送迎バスの一般利用(混乗) 京都市 交通事業者 商業 R7 R9 R10 実施主体 スケジュール R6 R8 (年度) 施設、医療施設、観光施 既存の共創事業の拡充検討・実施 設、学校、地域住民等 新たな共創事業の実現に向けた検討・実施 都心部、周辺部、中山間地域のそれぞれの地域特性を活かして実施。 実施エリア 実施に当 取組に要する費用の負担(行政・事業者) たっての 実施主体間の合意形成 課題 現時点の 路線バス車両を活用した貨客混載事業(京都市、兵庫県神戸市など) 取組内容 スクールバスの一般住民の混乗利用(京都市京北地域、埼玉県飯能市など) 買物や病院受付等の代行サービス(京都市、神戸市) 散しいものを伝えるだけ ドライバーがおつかい